

百寶民
香泉
藏書



門ル 3
號 3765
卷 4

百寶民
香泉

木曾路名所圖會卷之三

○落合
霧原山
第本
皂鵬巖
九山城跡
岐阻路山中
光德寺
兜巖
○三富野
羅天橋
牛頭天王
飯宮

同縁
落合橋
御坂古蹟
兼好法師跡
下坂川
吉籾路
雄雄瀑布
妻籠古城
風越山
園原先生碑
伊勢山
住吉祠
熊野権現

十曲嶺
蘭原
孫倉街道
諏訪祠
木曾川
大妻籠
鯉巖
古本若岳
牧澤橋
赤坂蘇嶽
向山権現
等覺寺

○馬籠
伏屋
義信園塚
○永昌寺
妻籠
牛頭天王
烏帽子巖
捨樹澤
横川戸橋
揚籠山
若宮祠
觀音堂

了
5(7)



義康古城
 名産
 権守兼遠家
 野婦池
 宮腰
 本曾義仲城
 山吹山
 義仲手洗水
 萩原宅
 名製五掃
 鎮明神祠
 長泉寺
 名造諸器
 櫻澤橋

門家譜
 赤魚
 研大谷
 正八幡宮
 通に次郎兼光館
 萩曾川
 藪原
 五反田橋
 鳥居嶺
 綱懸嶺
 奈良井義高家
 諏方祠
 勢川

本曾義昌家譜
 名製
 水精山
 斬蛇潭
 南宮祠
 今井節兼平城
 往還橋
 慈燈權現
 巢鷹官舎
 義仲硯水
 奈良井橋
 千村重昭宅
 平澤
 構本澤

土産
 奈良井
 大寶寺
 土産
 勢川
 諏方祠

德音寺
 巴御茶屋蹟
 德音寺橋
 極樂寺
 土産
 奈良井
 大寶寺
 土産
 勢川
 諏方祠

岩戸觀音
 野尻
 鹿島祠
 妙覺寺
 長野
 貴布祢祠
 阿滿橋
 淨勝寺
 小野滝
 獸類皮店
 鹿嶋祠
 本曾根尾跡
 本曾川
 興善寺

名産和合酒
 飯盛山
 向山権現
 野尻家
 今半氣平城
 出雲祠
 磐出觀音
 左京大夫親豐墓
 本堂
 御室
 御嶽川
 神門
 親善堂
 日光川橋
 本堂
 御嶽川
 御室

三富聖邸
 本曾大河
 住吉祠
 本曾致春家
 木曾殿館
 天長院
 須原
 藤川寺
 阿弥陀堂
 三飯廻前雨居
 御嶽
 福島
 稻荷祠

本曾古道
 牛頭天王
 諏方祠
 聖尻城山
 弓矢八幡
 辨助天森
 伊奈川橋
 麻橋祠
 寢覺床
 氣比祠
 上松
 御嶽鳥居
 福徳園隘
 長福寺

本曾三日月一

本曾路名新圖會卷之三目錄終

親壽寺
 千村後政家
 五月日橋
 黒川温泉
 箕地山
 西野
 氷満園道
 本為殿墓
 本山
 岩光寺及
 塩尻

鷲着寺
 萩曾
 夜更着洞
 山神祠
 烽火臺
 黒澤
 土産
 兼遠墓
 本山親音
 桔梗原
 塩尻嶺

御嶽権現
 小子墳
 駕痕嶺
 赤川
 諸獸
 押巻橋
 熱川四郎宅
 土産
 秀洞澤
 燒糊山
 地雙澤
 御嶽山
 岩戸権現
 三浦山
 義仲馬洗水
 阿禮神社
 大岩

本曾路名新圖會
 卷之三目錄終
 霊社



茶合橋
 十曲嶺
 美信二州の
 國界あり



上
 三
 二

木曾路名所圖會卷之三



馬籠まで一里五町は宿も若竹炮を製して沸るおあ系
いみへ落合五郎兼能とよみ者居住の地あり駅の西
方小杉の大樹多くある林あり其中小落合の即か靈と系
祠ありは宿賤

落合橋

橋の入口小あり金ヶ橋ともいふ双方より架出

十曲嶺

坂合の馬籠の間にあり里人十石をり十曲とい

美濃信濃

美濃信濃の境にあり

霧原山

霧原山の東にあり山中一里餘平地あり

御坂山古道

濃州大井驛の北千駄木より本宿路よりふた宝二年
本宿路をゆくくとくは街道なり園系を経て伊奈郡小玉

萬葉

知波夜布留賀美乃美佐賀爾怒佐麻都里

伊波負伊能知波意毛知我多米

後拾遺

志く雲のうらり見ゆるあしの山けき根や津坂かろく舞

夫本

信濃打内葎のりくむらうられく本宿の津坂お糸く小たわ

續後撰

志かれらや本宿の津坂小篠原分り社もかくや霧原

新千

谷風本雲こまのわれ信濃路やまをれ津坂乃夕まかみ

古事紀

日本武尊條曰越科野國言向科野之坂神而還來尾張

國云

倭武尊信濃をる美濃へおのふとて大坂の坂を越ゆくと食於山中

景行紀

山の神白丸麻と成る津原よまをる信濃坂と越ゆそのおほく神

氣よ

おのけうく神の氣本あてけく又曰る山中に道を歩ひくふ小

氣よ

おのけうく神の氣本あてけく又曰る山中に道を歩ひくふ小

おのけ

おのけうく神の氣本あてけく又曰る山中に道を歩ひくふ小

おのけ

おのけうく神の氣本あてけく又曰る山中に道を歩ひくふ小

おのけ

おのけうく神の氣本あてけく又曰る山中に道を歩ひくふ小

おのけ

おのけうく神の氣本あてけく又曰る山中に道を歩ひくふ小

今治物語

白狗導を執事ありて吳濠本出りしとき

今いひし信濃守藤原陳忠より人ありし

元方の二男なり正五任國畢てられ上りし

位下信濃守小田守

カ小田守を執事人の家なる中に守の業

本を後足成りて踏折る守達より馬

なくとも志は深ければ守生もあ

いふ事遠小遠く聞ゆれ共言ふる

云ハハ藤原丹後長くはあて下せ

甲斐清なるなりしときと知る藤原

結びて結結とこれくと下り

と云皇朝七十代の後すでも

の樹の下にありし藤原を結

別一本を築て是と藤原を結

今この樹原の村に宗祇の

菌原

今この樹原の村に宗祇の

結びて結結とこれくと下り

と云皇朝七十代の後すでも

の樹の下にありし藤原を結

別一本を築て是と藤原を結

今この樹原の村に宗祇の

結びて結結とこれくと下り

と云皇朝七十代の後すでも

の樹の下にありし藤原を結

別一本を築て是と藤原を結

今この樹原の村に宗祇の

結びて結結とこれくと下り

と云皇朝七十代の後すでも

の樹の下にありし藤原を結

別一本を築て是と藤原を結

今この樹原の村に宗祇の

結びて結結とこれくと下り

と云皇朝七十代の後すでも

の樹の下にありし藤原を結

別一本を築て是と藤原を結

今この樹原の村に宗祇の

結びて結結とこれくと下り

と云皇朝七十代の後すでも

の樹の下にありし藤原を結

別一本を築て是と藤原を結

全系

新古

後拾遺

伏屋

これより一説は真田のれく小ありて十の系

からと今とと成のりやよなりと也

とくき此指や川これわつれよその末おあ

そはもや伏屋小生るるは本の有といふ

ゆつてせあれも何れ常本の為せけつ

伏屋の申にある田屋をいふま

を云小田とてうはより上りて

或云は小田の家なり其の先

其地は信濃守の下の小田家

と引て伏屋とすその系は

古昔有家武人之倭文幡乃

妻問為家武勝牡鹿乃云

又慮八條ぬせをのすれい

云くして地本うらふせう

常本

常本

常本

常本

或人かたりける一とせ受領小く人々山本等といふ事有し小
又他本をたらし並て構ると高し中丸構るれば斧とあては小祠と
兼好法師菴 住れり今其遺跡ありと云ふ兼好法師云本菴の住小
通して今又此をて猿屋をせしむる
鎌倉街道 今其合をてて猿屋をせしむる
時鎌倉將軍の代されをけ通より鎌倉へ通れ又甲州武田は乃
濃

馬籠

妻後中て二里 駅中南北三町
其好民居山中に散在に

皂鵬巖 驛の西山と小あり其好皂鵬の岩も集るが如し
下阪川 驛の中流湯船小川なり
諏訪祠 熊野権現祠 俱小驛中
永昌寺 後醍醐天皇御寺に属す

丸山城 驛の西小あり丸山を稱し又驛の南小岩山といふあり
破蘗路 此の路の一方なり 此の路の一方なり 此の路の一方なり

千載 本賊くれその何と死ぬ袖ぬきてみるぬ身も中と致危
指迷 中く小のいもたれして伝流され本菴の橋れひさやふせ
後法橋 生ひささふ谷の指取もて中くちの丸花む本菴れひさ
後法橋 分々本菴の橋たえく小石を急ぬ丸峯まふる云
新法橋 雲もると下にえなふひさのけつるふ言れ本菴の中ら
家集 了も本菴の橋れあふふ流さうてや月のとを後らあ
本曾川 是も月のけふさつる山人のいてはるあこれ事のけし
夫本 見せとやふいうは流の本菴流河君も思ひの流さつる

空仁法隆 寂蓮法隆 源頼光 後寺御院 宮内卿 後系後抄政 源頼実 左大臣 頼阿 洗二位 行家卿

從開關傳秦丁力
 棧道斜通野寺前
 峯去絕蹤踏曉霧
 樹深聽聽泣霜天
 蟠眉不掃分軍夕
 驥足欲馳隔澤年
 楚老何因當日事
 采薇一曲隔風煙

霍山烟雉純



馬
 妻
 後
 凡
 々
 々

馬
 道
 有





鯉岩こひいし

牛頭天王ごとうてんわう

駅中えきちゆうにあり一村生いちそんせい上あが神かみとて其外そのほか神明祠しんめいし

大妻籠おほつまかご

駅えきの道みちの上うへ

雌雄瀑布おめおとたふた

駅えきの南みなみの側そばあり雄おとた小こあり

本若路山中ほんわかしやんちゆう

谷たにの中ちゆうにあり岩いしの壁かべあり松しょうの樹じゆあり
 松しょうの根ねは石いしを壁かべとす風かぜをぬきまじりて
 寒さむくむしりて秋あきの山やまに葉はをまじりて
 用もちの杖づえの根ねは松しょうの根ねとす
 乳ちゆうの橋はし本ほん橋はしあり
 小こ花はな開ひらく又はまた田いん圃ぼ多おほく
 松しょうありこれこれを葉はとす
 雌おめ雄おとの側そばあり雄おとた小こあり
 大妻籠おほつまかご 駅えきの道みちの上うへ

妻籠つまかご

三留野さんりゅうのまでを里半さとなか駅えき中ちゆう南みなみ小こ三所さんしょ相あ對ひして巷ちやう成じやうなり
 其その作つくる山やま間ま本ほん民たみ居いまゝし本ほん若わ路ろを安やす曇曇都となり於おの
 之この園えんをて階はし坂さか多おほくあり一ひと科け野のと書いはば園えん東あづまの上うへ野の

南みなみの甲か斐ひ遠とほ三河さんか水みづを越こ後ご越こ中ちゆう飛ひ彈だん石いしを以もつて
 丹に摩ま不ふ圓えんの長ながと東あづまを雄おと并なら津つより西にしを英えい流りゅう場ば巨こ道だう程ほどは十七里

本ほん若わ路ろの道みちは
 三月さんげつ末まつ頃ころ一ひと時とき

妻籠古城

城の東にあり城趾現存天正十年本曾義昌之将を築いて

山村良勝攻めて小居とむ同十二年秀吉公本居義昌を令し

伊奈路を禦し義昌兵攻良勝小増して妻籠城本居の時小住宗久

郡主管小大膳頼訪保科を令せ本居と頼人と欲は本居の

岩を拔く妻籠城と攻め良勝士率本令して鳥銃を放つこれを防

伊奈軍登る支を得退ひて遠巻ありて且水道城割城中水

自軍を引く馬次洗く敵を引く城中に水沢あり城壁して拔

かひとて軍を退け伊奈は小居を良勝伏兵攻設けとて討

士率死亡する者多し若治之に敗走はせし良勝の功

鯉巖

妻籠のふらふらあり

烏帽子巖

形似烏帽子あり

兜巖

右小隣あり

風越山

飯田の西あり妻籠に入て伊奈と通る

千載

詞花

夫木

新六

士百

風あけ吹ゆよえこれの討者ありては雲の底小写る来

風越の雲はくもて見ゆるをくはれ物ありなり

手向もむきひくゆり風越の雲雲の尾花種ふせ小

くふて月をえんてさらさら小電吹てあけ風越の

さうをえんての雲よ候に雲向ふとて風あけ此

吉本曾嶺

飯田界あり

松樹澤

文三年三月十三日霧籠りて其死甚し

伊奈軍妻籠城を攻めんとて小退く山村良勝

其時の射殺の痕あり

三田野

聖廟中で二里中野中南北二町好相対して巷

みか山中たり名ありわん源山山岩あり

統中三留聖廟の聖廟までの間をわん源山

流れる本居川は路の狭き所を本居とて



山を登りて
本居路の
秋景
長茄子
瓦全



三田登り
の
聖
路
の
嶮
多
杖
道
新法拾
雲もか
下に立
けり
の
本居の
山
深頼具



甲観音

あげ山

かゝ見街道は狭きを補ふ右と左の山より屏風状なるれめりて
 其中より大巖よりゆる路を遮ふ此る小橋乃まゝいづれも川の上
 りけり橋少くありて碓道の絶ゆる所よりわかれたる橋あり他國より
 くるかなんけり橋あり山の尾崎にありて谷口へ入りて先の小舟
 尾崎にありて所より其若道小橋つて溪川の流る本若川小落合
 所よりこれより小橋ありて幸甚一は間小中橋より所より
 其向ひ小坂友とより所より其ありて溪川一流ありて雙方の間
 に大岩ありて是系あり

園原生の碑 神戸の東にあり天明三年これを建ふ
 牧 牧澤橋 横川戸橋 羅天橋 いづれも橋
 伊勢山 伊勢の山にありて里流之天正十年
 奈岐嶺 嶺の東にあり又一名峠比谷とありて峠野嶺と御嶺とお峯
 揚巻山 神戸の西にありて峠野嶺と御嶺とお峯
 揚巻山 神戸の西にありて峠野嶺と御嶺とお峯

廣さ村十歩其内山房式三丈の平石ありて其山境の石座と
云傳人其山境の諸曲み声をあけ海の中を渡る人
牛頭天王祠 住吉祠 白山権現祠 若宮祠 劍祠 熊野権現祠
俱小三宮聖小

等覺寺 三宮聖小あり曹洞宗時見山と号し信州松本全久院小属し
大雲和尚を創し
觀音堂 神戶の觀音と稱し馬頭觀音が安んじ村民香火を捧ぐむし
岩戸觀音 千手の西岸上の窟中に
名産和合酒 本香の谷中に湧き出り和合の里人より先く酒を造る

三富野郎 馬のあふ一の阜山あり信州松本城山より本香義仲の子孫
本中將軍軍勢小属し武功
有て家と列代とあり

本曾古道 細川久田見蛭川高山嶺越坂利みりるこれ信州小属
是其右道よりいづれの代みり交易しりるありん

三富聖より屋小坂羅天坂をこえく清水村みりるは同世所
許あり皆みり中極村坂をて尾城の農家にあり十二極村

より駒ヶ嶽鮮小見也内は時雪城峯に載きて風色斜ありて
坂をこえく芝山下左家より聖尻の駅みりる
須原までき里三十町は駅あり一は聖路里や書以駅中
東西五町好相對して巷状あり其谷山間小散在し

野尻

飯盛山 駒のあふり河を隔り
本香大河 三宮聖の東よりく坂をこえく上松みりる水流奔

騰して其聲雷霆の如く大雨の時水漲りて畏るべし

牛頭天王 鹿島祠 白山権現祠 住吉祠 諏訪祠 俱小村民

妙覺寺 須原定勝寺小属し
野路里右馬助益家 駒のあふり河を隔り

本香大河 三宮聖の東よりく坂をこえく上松みりる水流奔

本戸彦左衛門致春 舊小笠原の族人行り國東本戸みありて氏とん

太刀一柄あり長廿三寸許極老く奇他あり

野路里館 野の南にあり今城山といふある村昔漢一平を鑿得る岩あり古甲曹の朽跡を有るおありん是古城の證といふ

長野 東山道の中にあつて駅次非なり

今井四郎兼平城 其麓に古園門の址あり今井といふ山頂小城址あり

本曾殿館 村に後三宮あり其後三宮の遺址あり本曾殿村に後三宮あり其後三宮の遺址あり

弓矢八幡宮 弓矢村小あり本曾殿村にあり

貴船祠 十月に日石川兵衛老翁神田を奉遷り

出雲明神祠 其地は須原村の境内にあり

阿弥陀堂 出雲明神祠の境内にあり

天長院 眞言宗中興の祖聖小あり

踏小大應三十三年 永平八年号の文字有

辨財天森 本曾川の

阿満橋 伊奈川にあり

磐出観音 須原村の上にあつて幸馬廻

院末諸一 中徳の岩上本曾の大河を見と長野村の天長

関門と見て核をりてはけ間の坂嶮一を平次ひり田中むり

経く大徳村の今井四郎が城址を見端勝村より伊奈川橋より

須原の駅泊り

上松まて二里九町東山道駅次なり東西四所存おありて巻と

力に土産縁綿は色此諸村蠶紙巻入幸多し

伊奈川橋 三重中間大水本曾に最壯觀なり後世石を巻く巻に

十六間と

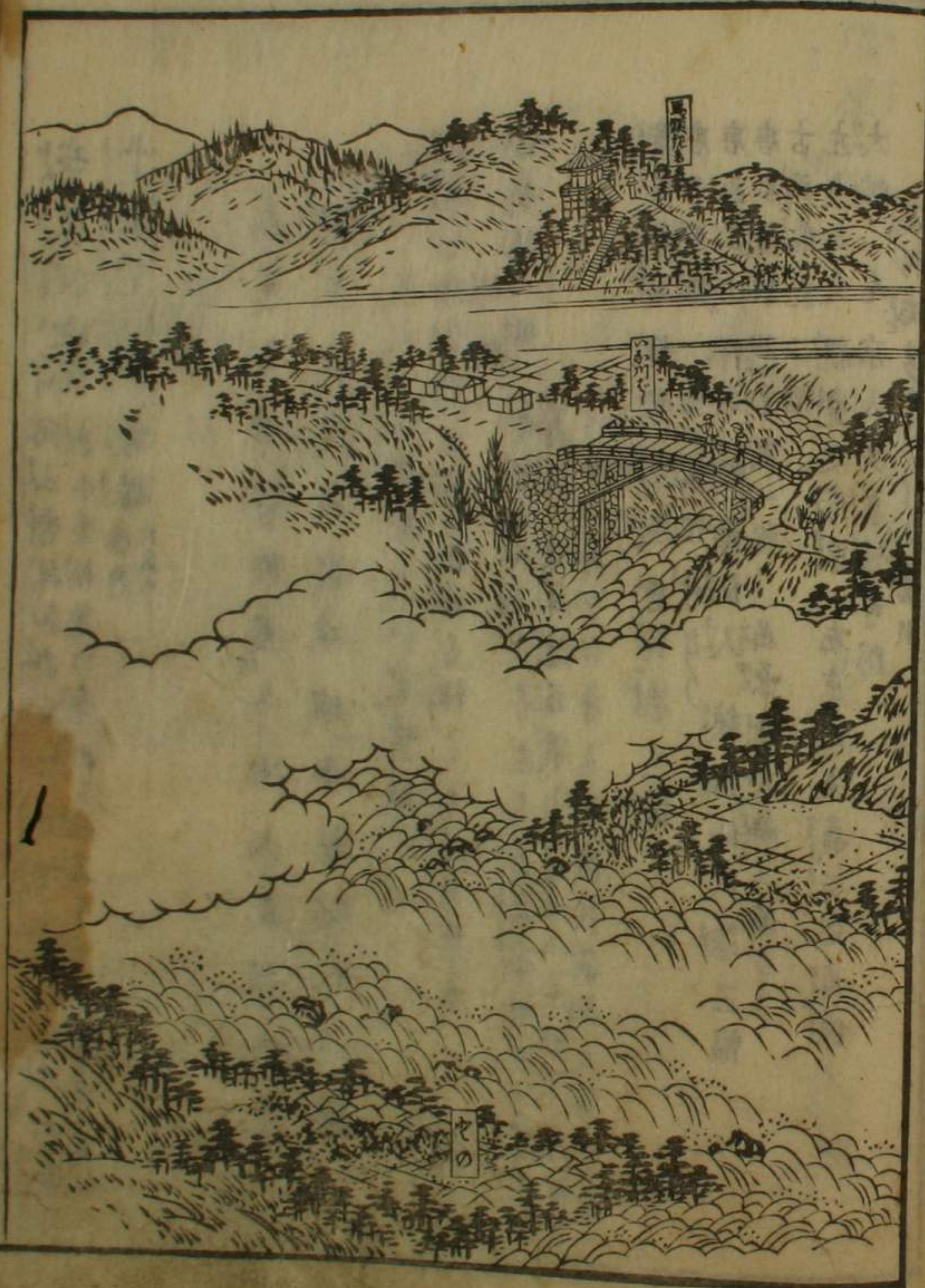
淨戒山定勝禪寺 須原の西にあり

須原 信濃

伊奈川橋 三重中間大水本曾に最壯觀なり後世石を巻く巻に

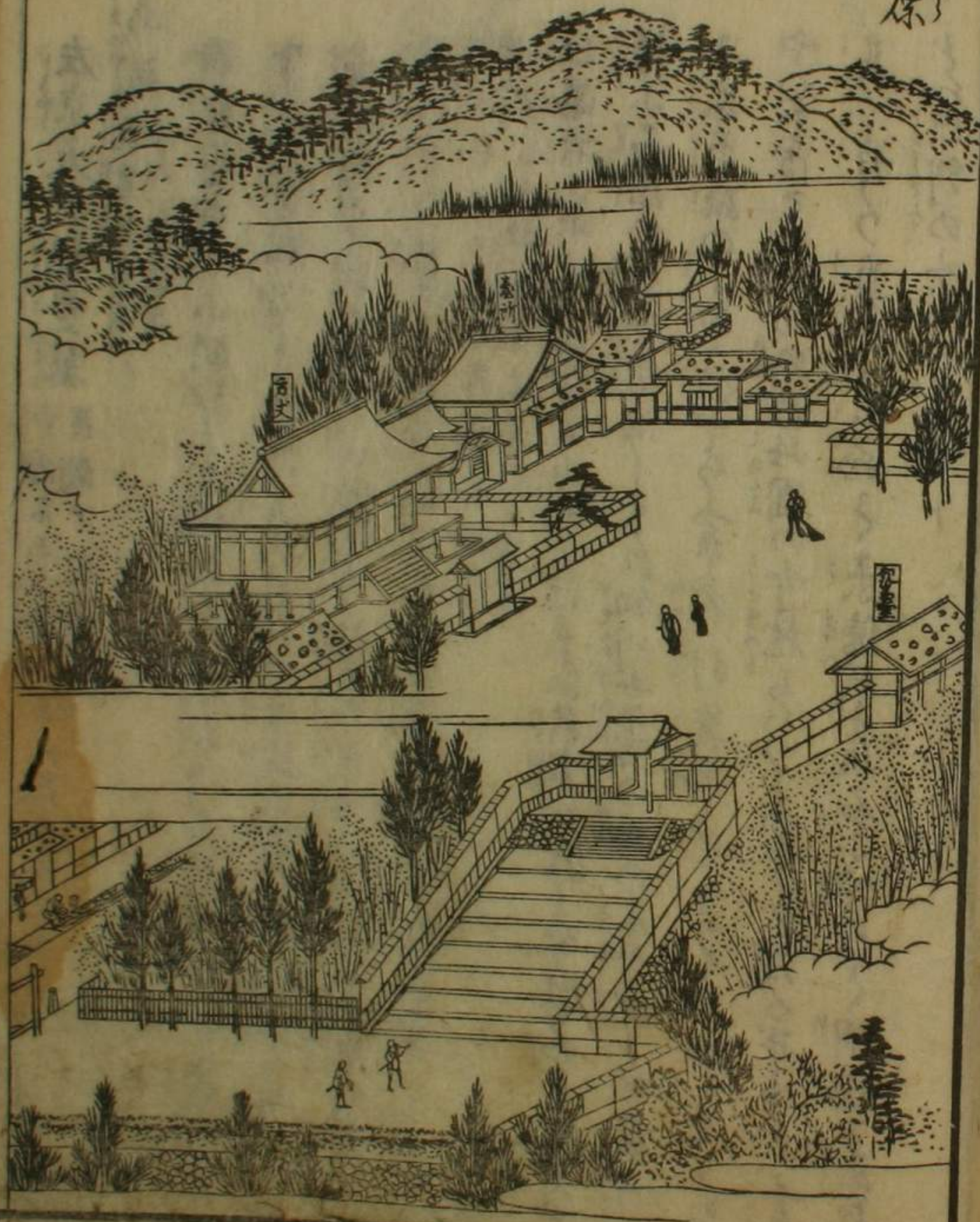
十六間と

淨戒山定勝禪寺 須原の西にあり



寺勝定

須原



奉尊釋迦佛... 十一王堂... 鐘銘曰

山色登樓詩興濃
千鈎大器響珍重
群生試聽斜憲曉
醒夢聲聲百八鐘

遊觀... 天文十八癸酉... 王林聖贊誌

畫墨梅... 釋迦... 普賢... 三幅
唐畫出山... 釋迦... 普賢... 三幅
古畫龍虎... 二幅
左京親豐... 左京大夫義清... 左京大夫義元... 之肖像
太鼓... 其像尚多... 其像尚多... 其像尚多...

左京大夫親豐墓 寺内本あり墓上本木橋の橋あり
鹿島祠 相宮五置氏 其園式集評

須原を出入り小沢ひく大洲村あり本本大洲あり其地を
幸あれど松ひく本ひく大洲川より流れあり橋あり南む
番場村これに漢川の橋あり津屋倉幸立町あり茶店あり
立場なり宮の堂村なり村を過り萩原にひく

小野 瀧 高 三丈許直下本本川あり

は瀑布泉と山洞より巖をけり只布張りせれがく落ふ
侍小石像の不動尊ありまは細川玄吉の老の本を越りて死
小本石像の小聖滝中より布引其面をどれも母とくそわ
やれを付これ程の物乃此國の奇松ありつふそとらるがやと書
しつかり真由雲花と素練たれ石小噴びと明珠と散れ
とらけ所の幸りるる

ふ先川橋 本本川あり長十五間南あり本あり
寢覺山臨川寺 寢覺山あり本あり

奉尊釋迦佛 開山法山和尚

辨財天祠 園覺院及中庭建寺あり

木曾八景 寢覺夜雨 棧道朝霞
小野瀑布 德音晚鐘
御嶽夕照 德川秋月
御嶽暮雪 風越晴嵐

各詩あり 尾州の家臣山氏良由作

寢覺林 糸糸あり其間より橋あり其方丈の庭中
寢覺の庭を臨川寺の茶裁のうら岩間をけりてひて
みちあり其道なれどけり糸糸の庭と本本川の川
あり大岩あり横と十間長四十間をうり有これ本本川あり
いと狭き所なれを遊りて糸糸の水のさぬ目もろめく
地を流さもけりてそ糸糸の庭とけりて大なる

小野? 沈



小野

家集
山は

咲初

より

久々の

雲井小

兄の

滝

志系

中務親王



巖ありて河小勝りて高れとて海ありてやうな河祠ありてまうん
 辨天をひく 早たけ平ある所成りてく麻とらふ其岩園の如くあるを
 幾許せりてを去りて其うま平あり又飛ぐれうこの河系の中
 めて大石あり水ありて本岩川流る度覚の麻中大巖あり
 方本岩川よのどえとて石岸屏風を立たてておどくひひも
 大巖ありて海岸の間にありて二間ありて二間ありて
 小賊も網をうててけ河成通とを支岩の下の所長六十間
 許あり上の水も流るの岩を上の巖中より河中に板石として一つの
 石有川むひの大岩のうま三つ穴あり一の穴あり大釜とて二の
 小釜と小釜とらひむひ小屏風岩とて屏風を立たてておどくひひも
 其下なる岩とて雲たとて岩あり又急ひ岩とて鳥帽
 子あ形なる岩あり其岩河のこ形あ平岩を其うま小龍岩有半岩
 のうま小巖岩有其黒岩あ象岩とらま又川むひの岩と小檜板梅松

小の岩二十七

など志げりてうまれま凡あは地と他所の勝まる風系にもまえま
 奇妙の風色なりいはしくま流れ事まるまあまりまくま雲まもま迷まじま
 この高ま浦ま島まがま釣まれまれまとまらま俗ま説まありま浦ま島まがま幸ま日ま年ま紀ま
 雄ま器ま帝まのま條ま又ま枝ま桑ま器ま記ま身まへまれまもまはま地ま小ま室まりま更ま日まへまさま
 されまらまはま本ま岩ま海ま道ま中まの名ま所まありまてま此ま街ま道ま成まりまふますま作まりまふま
 三ま奇まさま内まなるま飛ま雲まといましま謠ま曲ま本ま岩まれま中まよりま三ま態ま聖ままま
 山ま伏まありま死まのま小ま達まひまするま幸ま成ま作ままりま遊まるま書ま小ま身まへまとま杖ま杖まトま
 何まとまいまひまふまとませんまとま一ま奇ま勝まありまとま

近湯橋改
 新無云

幽山

鶴山

うせ成

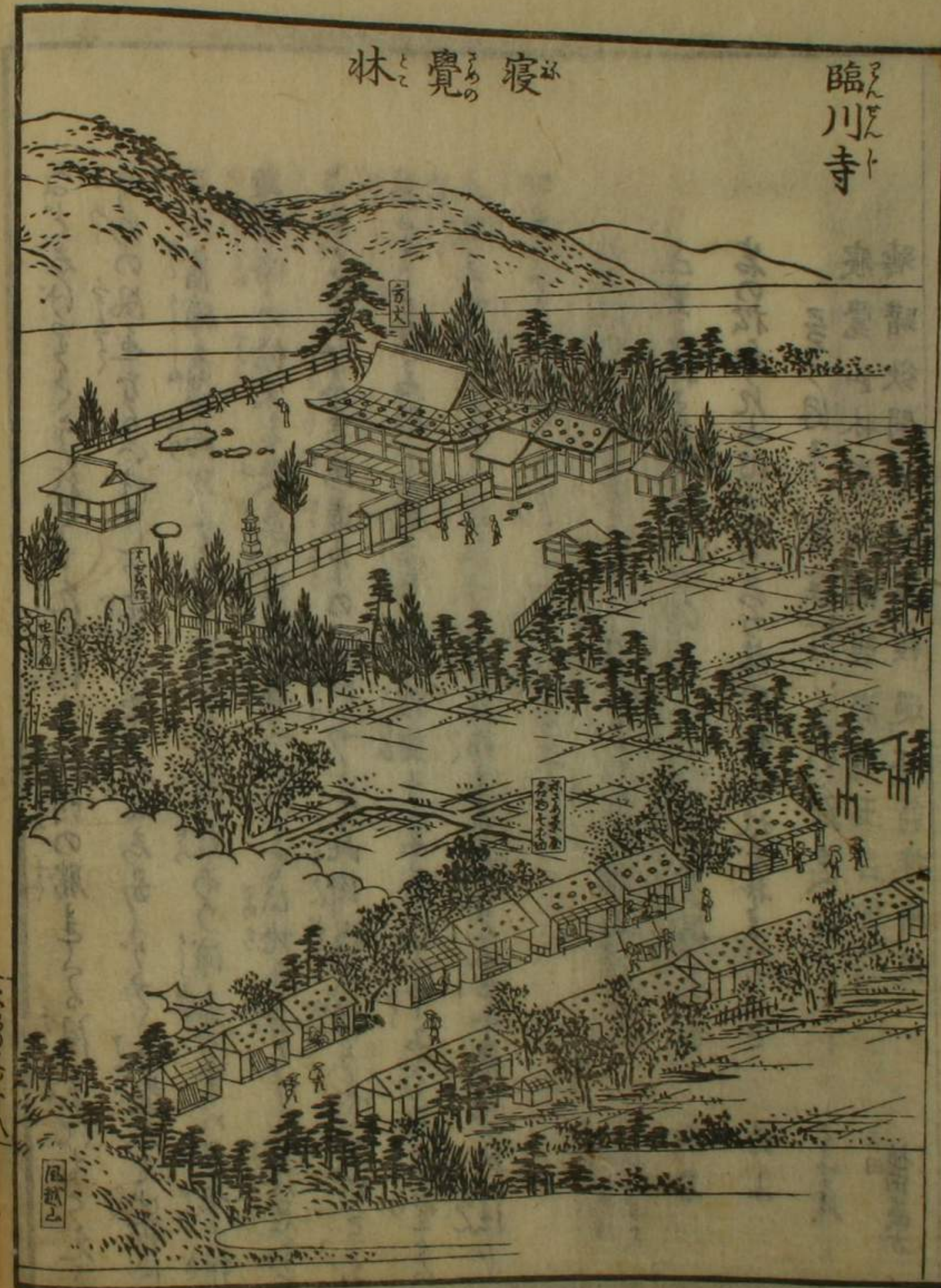
吉田
 植田善方

此小河のままりま度まもま然まとま成ま度ま覚まのま麻まとま雅ま名まはまらまん
 山ま里まもま採まりまのま麻ま乃まさまひまらまふまとまままりまるま小ま院まままとまも
 岩の松まゆまれまとま波まなまらまらま枝まのま採まりまのま麻まとま雅ま名まはまらまん
 三ま奇まさま内まなるま飛ま雲まといましま謠ま曲ま本ま岩まれま中まよりま三ま態ま聖ままま
 山ま伏まありま死まのま小ま達まひまするま幸ま成ま作ままりま遊まるま書ま小ま身まへまとま杖ま杖まトま
 何まとまいまひまふまとませんまとま一ま奇ま勝まありまとま

寢覺仙林巖
 聲間碧湍鳴玉
 白雲開
 躊躇欲問當時跡
 頼遇軒翁採藥還



岩
 幾重
 あも
 林
 て
 月
 あ
 難
 島



臨
 川
 寺
 寝
 の
 覺
 と
 林

風
 越
 上

獸類皮店 本名の山中は意より

海川新瑞城より小然の皮膚の草猫を皮靴靴の皮ひあるは然の
爪百多枚花牙など多く物一と種を信子店所よりありは意する
獺昨朝夕夕山本特獲これと製一ありふれりゆさう一人
これ試求る本名の名産とい然を六雄將軍の瑞もせしとく
多くの草店茶にけりふるも又表より小見也

観音堂

建中あり天正年中土民田賦耕して洞窟に得る一巻と
阿弥陀堂 親聖人第二世如信上人の画を所祈し

氣比洞

鹿島洞 神明祠 徳和氏新傳
三飯廻翁閑居 小あり 弘治年中此人ありて世業を厭ひ

は本名の山中に居し老の薬成人ふ其頃の名醫なり
あしとる山中奥深く入る茶と極これを製し茶味を調ふ
世より三傳せり謡曲も此人をせり良方の名世より愛小若ん

- 和極集上下 ○新撰之方 ○小兒諸門

- 當流大成捷徑度印可集

- 啓迪菴日用灸法 ○治肺氣通藥之部

- 諸藥勢揃藥組之方并諸療

- 當流依門下學主懇求 ○辨證配劑

合九卷

弘治第二丙辰十一月十九日夜組之

信濃 上松

福清まで二里半 馭中南小丘所相着して巷沢あり其存山
間小散生して住居はけ 馭都會の地あり商人多し繁昌を
地より馭の山に新築屋とあり終式三家有り 藪坪を齋とて

名物とん

本曾棧齋跡 馭の中にあるありへ 山路險難ありて旅人少く若む
有司長五十六回 棧三間 石又寛保年中 棧上棧と稱え



岐阻山行
 岐阻從米嶮
 劍門陸危不
 管近魚原
 巖連峻迫
 懸空渡疎
 急灘戶轉
 谷昏古木
 十峰蘿日月深山
 一路開乾坤最驚
 盛夏雲端雪諸嶽
 中天冷可打南郭



上松より
 福徳の洞ふ
 枝乃の旧跡
 ひの上的の
 山は街道
 ありて
 枝乃の洞ふ
 けふ死つとせ
 後世今の如く石を後て
 橋も短く濼とて
 かし

十
 十

今世未だ安穩なりて種を岐評橋とて長巻三回評断冠さ
更ふく橋下の石小流あり

此石垣慶安元戊子年六月良辰

成就焉畢

又寛保元年辛酉十月吉辰

御嶽川

後海の所に西の方より別河大なる川流れ出る谷あり穀粟ま
なり流るる本谷の草谷よりとあり

御嶽川の本谷の御嶽あり其谷の奥小良材野一福橋より其溪
の川上も十里許ありは河の流れよみて材本多く出はは河上の方本

本谷北御嶽をけりて駒が嶽より大より高き山あり西北小ありり
はひ小雲多き山あり予こ月の末に通るる小川を雲多し富士

浅間ももろく坂方なる河のせり道の本谷市岳の谷并あり市溪川
を流るる川仍合されを合流と名ははは別より御嶽見ゆこれ岐嶽の

山中に材本多き山ありよ及ん檜楡松模榎多し杉もあし
標をきりてあり厚木を板小川下へ流るる事ありて御嶽をけり

真本特小多し又山中小も道の側本橋の本多し大樹あり葉を折
の本に似て枝をまきとてとて終り実ありと様子れとて土民
これをとりて粉もへんとして飯小食く食用とてむ飢饉にそんく
其本は横交ありて器物不可なりとて尾州君より伐ふ事と禁
制してそ終り伐りて民の食物も少なる材本を伐り
松人と尾州君より和泉紀伊近江の人を備へ遣ふる毎年春雲
消二三月本山に入ると十月本山出九費千百人とて入事致志は表いふ
入る松人まことつなご持て毎日引もさうに上りより本谷へはは松
人とも山中の家を居候と本谷材本に削りありは橋小つり
長に尺許あり小な本谷河へ流せははらうとも形くあふ道ひく流下る
河中の石小ありとて流りたかふはは小壺なるその末りて流下る
松よりとて水とく石高はれを通はは流る本とも本谷とて
英法の内吉田の比里川上小流幾とて所よりはは本谷小文徳と張て

信濃 福島

一本も下(福)さへせんとし... 御嶽 御嶽鳥居 本曾大河 御室 官越すて一里半 小教主は本曾

分の地より急より緩降を六十七里福島より戸丘六十八里

福島關隘 萬松山興禪寺 幸尊觀音 鐘樓 稻荷祠 愛宕祠 義仲墓

什寶 朝日將軍義仲公乃び四天王の肖像 三幅

左支房覺明書 一幅 其外教品あり

龍源山長福寺 龍源山長福寺 龍源山長福寺

本曾殿の乗鞍 二具 概金鞍桐の紐あり其外馬具ホあり



義康古城 聖のありあり 杖に三葉のひき

本曾肥前守義康家譜 左系丈義のふなり 瀨原より味成より

鐵田信長と率敵二十餘年 小及べども 勇く 武田信玄 尾州

年 八十二年 義康返り 武田信玄 敵をむきん 和を講

本曾左馬頭義昌家譜 義康の長子なり 信豊 勝頼 今 義昌

は後其子 勝頼と 際なり 鐵田信長 和 勝頼 これを

聞えく 大不怒 天正十年 典 鐵田信長 勝頼 今 義昌

これに 義昌 出 義昌 勝頼 今 義昌 勝頼 今 義昌

鐵田信長 父子 大軍を 發し 甲州 小 入 義昌 勝頼 今 義昌

斬 武田を 滅 三月 十九日 信長 上 敵 勝頼 今 義昌

賞 北条 氏 討 平 義昌 天正 十八年 豊臣 秀 吉

法 公 北条 氏 討 平 義昌 天正 十八年 豊臣 秀 吉

民 公 北条 氏 討 平 義昌 天正 十八年 豊臣 秀 吉

率 其 子 仙 三 郎 義昌 天正 十八年 豊臣 秀 吉

名産 駒 本 爲 福 信 小 幸 爲 其 不 馳 受 此 駒 毛 駒 駒 駒

赤真 黒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒

河鹿 眞 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒

名製 靱蓄 越 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒

凍豆腐 凍 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒

凍糰 山 村 氏 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒

諸薬種 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒

諸器物 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒

駒嶽 石 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒 駒

續日本紀云

天正十年八月信濃國獻神馬黒身白

髪尾云

斯の如く旧記あるは、年諸州の軍年派集く、駒嶽と圍んと、これを狩り
んや思ふ、ひく、此右之將の旨士乃、牧狩小做、たぐ、や、後先支度、及、
助其幸の六月、明智光秀が、若小我、其、其事、松、山、山、二、峯、あり、
三つの内、第一小高れを、大嶽、と、移、大、山、あり、故、本、遠、方、より、鮮、小、見、也、
本曾、山、の中、かり、山、上の、雪、六月、土用、の、末、に、消、く、八月、ふ、又、後、駒、嶽、の、
麓、を、大、原、と、し、其、的、小、川、筋、あり、駒、嶽、より、流、く、水、かり、駒、嶽、の、
山、脚、上、修、系、宮、處、あり、つ、真、今、村、と、あり、つ、龍、飼、山、と、い、寺、あり、
寛永の頃、飯、田、城主、服、坂、友、兵、衛、の、陣、を、小、止、宿、あり、つ、殿、邑、の、八、境、れ、森、へ、
狩、小、出、れ、駒、嶽、と、降、と、詠、は、

尾も志海、頭も、駒、嶽、か、ん、の、は、雪、の、や、こ、

中三権守兼遠家、古松、一、本、あり、これを、呼、ん、ぶ、本、香、義、仲、の、え、

植、松、也、今、指、す、

駒嶽 遠景



兼遠宅址
中三権頭

治義四年九月七日丙辰源氏木曾冠
 者義仲主者帶刀先生義賢二男也義
 賢者久壽二年八月於武藏國大倉館
 為鎌倉惡源太義平主被討亡于時義
 仲為三歲嬰兒也乳母夫中三權守兼
 遠懷之適于信濃國令養育之成人之
 今武略稟性征平氏可興家之由有存
 念而前武衛於石橋已被始合戰之由
 達遠聞忽相加欲顯素意爰平氏方人
 有笠原平五頼直者今日相具軍士擬
 襲木曾木曾方人村山七郎義直并栗
 田寺別當大法師範覺等聞此事相逢
 于當國市原決勝負兩方合戰半日已

暮然義直箭窮頗唯伏遣飛脚於木曾
 之陣告事由仍木曾率大軍競到之處
 頼直怖其威勢逃亡為城四郎長茂赴
 越後國云々

兼遠と信州本名の人あり姓は中原故小本名中三と云々これより向小若刀先
 生源義賢其兄を馬頭義朝と不和あり或は大藏右大臣於々懸源を義平
 こ種を殺さ義賢幼兒あり駒王と云々後別命盛抱を負て信平
 仍兼遠小托以兼遠潛小書育して元服をさせ二即義仲と云々治義
 中平家上皇以爲洞の詩又小押我高倉王義兵と起し向小附義仲王の
 令有以又義兵を奉内兼遠これと輔佐を兼遠小三子あり所湯
 樋に二即兼光今井四郎兼平落合五郎兼行みか本名殿小隨従して
 武名あり又一女あり巴といふ頗勢力あり

峠殿 上田村の氏本姓は信濃の者あり其宅あり今にあり信濃
 依ひては峠殿と稱して酒殿を尊せざることを

映あり村民大これ公野子羽日將軍源義仲とてに借居りか

水精山 あり今にむと金瀧なり其地むりり水精山又金瀧を定

野火嶺 本名川の西岸にあり其時行儀を以て奉に至精山と相傳云本名

野火嶺 本名川の西岸にあり其時行儀を以て奉に至精山と相傳云本名

野火嶺 本名川の西岸にあり其時行儀を以て奉に至精山と相傳云本名

野火嶺 本名川の西岸にあり其時行儀を以て奉に至精山と相傳云本名

野火嶺 本名川の西岸にあり其時行儀を以て奉に至精山と相傳云本名

野火嶺 本名川の西岸にあり其時行儀を以て奉に至精山と相傳云本名

野火嶺 本名川の西岸にあり其時行儀を以て奉に至精山と相傳云本名

野火嶺 本名川の西岸にあり其時行儀を以て奉に至精山と相傳云本名

野火嶺 本名川の西岸にあり其時行儀を以て奉に至精山と相傳云本名

野火嶺 本名川の西岸にあり其時行儀を以て奉に至精山と相傳云本名

野火嶺 本名川の西岸にあり其時行儀を以て奉に至精山と相傳云本名

野火嶺 本名川の西岸にあり其時行儀を以て奉に至精山と相傳云本名

野火嶺 本名川の西岸にあり其時行儀を以て奉に至精山と相傳云本名

野火嶺 本名川の西岸にあり其時行儀を以て奉に至精山と相傳云本名

野火嶺 本名川の西岸にあり其時行儀を以て奉に至精山と相傳云本名

野火嶺 本名川の西岸にあり其時行儀を以て奉に至精山と相傳云本名

野火嶺 本名川の西岸にあり其時行儀を以て奉に至精山と相傳云本名

野火嶺 本名川の西岸にあり其時行儀を以て奉に至精山と相傳云本名

野火嶺 本名川の西岸にあり其時行儀を以て奉に至精山と相傳云本名

野火嶺 本名川の西岸にあり其時行儀を以て奉に至精山と相傳云本名

野火嶺 本名川の西岸にあり其時行儀を以て奉に至精山と相傳云本名

野火嶺 本名川の西岸にあり其時行儀を以て奉に至精山と相傳云本名

野火嶺 本名川の西岸にあり其時行儀を以て奉に至精山と相傳云本名

野火嶺 本名川の西岸にあり其時行儀を以て奉に至精山と相傳云本名

野火嶺 本名川の西岸にあり其時行儀を以て奉に至精山と相傳云本名

野火嶺 本名川の西岸にあり其時行儀を以て奉に至精山と相傳云本名

信宮腰

萩原中二里又宮越も書以歌中東西に町半相對

正八幡宮 里人云本名義仲は神を以て元服をとり

南宮祠 一村生云神

德音寺 本名義仲の牌を蔵む同墓報日將軍本名義仲宣

本曾義仲城 本名義仲の東にあり里人其地と

家系と清和天皇七代の孫六條判官為義二男常刀先生義賢

惡源を義平以て討平ぐむ義賢小二子あり其嫡子成仲家と

以源三位賴政事より子と其次を義仲とて種名を駒王と名

け父義賢害せし内附二奉齋森別當盛之種瓜匿して修列

に本中三兼遠本托以兼遠之徳を養育し彼と柏原村小集
てこれ小集しむ仁安元年相原八幡宮小集く之服以今の文の武
八幡宮是より名取本二即義仲とて治承四年平家上皇と
鳥羽の難宮小集居ふより時小源二位頼政が勸小よりの高倉
宮義兵を起し今旨を諸國の源氏賜小義仲命をおく兵を
挙く壽永元年九月九日越後守長茂中横田川京に合戦し
大い小敗る長茂逃走る武威益著る今井兼平樋口兼光相親
忠根歩仍親耳目股肱の臣として控城四天王と称し同二年五月平
軍十萬越中破浪山小集る義仲逆小集て大よこ是城敗る平軍死る
その七万人残兵系作に逃歸る義仲北に逃去る巖岳に登り七月
廿四上皇敵山小潛幸に義仲供奉し降入ふり其軍兵凡五萬
平賊帝と奉して西海小出幸に義仲父祖の恥を雪む寧小不世の
功の八月十六日信濃國信濃小馬頭征夷大將軍に任じ上皇又合て

朝日將軍とて頗朝憲よ素とけれこれより先高倉宮害小遭ふ其
王子信ともく小園小流落を義仲こ是に奉して信小入即位あらん
更をこ上皇聽容めらば安徳帝の弟君とて天子に之んと是と
年と聽小大憤怒を合むるあつと義仲小潜りつと上皇兵を起
義仲と討んと欲に義仲大に怒り十一月十九日軍以發し法住寺殿
と攻る官軍大に敗られ公卿命以損ひ暴虎豺小甚し源頼朝大い小
驚れ範頼義経の二將と使して義仲と征伐を元暦元年正月廿二日東
軍信小入ふ義仲栗津原に敗走し流着る中て首以被く義仲の人
とあり勇猛りて兵を用ふる寡とて之れを衆小勝向ふ所必勝故
年あはれして大功を立一世の雄せし小危し物も不學に之を
か誤る大逆小隔のひつと幸信む危し

樋口次郎兼光館大樹多
中三權守兼遠の長子なり本若及小従ふく居戦功あり所信は



天王の其一なり元暦元年の春義仲の命汝承く兵を率ひ河内
赴き十郎藏人を撃つ正月廿二日東軍洛小入る義仲被る兼光降る
洛小入るん〜これ汝聞く大少悲〜と逆小東軍に降ふ小法住
寺殿汝攻く多く官人を殺す其罪赦を乞ふ〜と六条河原
においで斬罪せしむ

今井兼平 鞍の東にあり
兼遠の次男なり兄兼光と曰く義仲小仕く属我功あり四天

王の一人なり元暦の春正月廿二日東軍洛小入る附兼平兵を率て
勢を拒み軍汝被る幸救箇度義仲を東に赴くと粟津原もて奮
戦し主君の戦死を聞くと忽ち款軍汝多く敗り馬上もて自害に
後世其忠を賞に

巴御前 跡の北にあり巴女居る所の御前殿に味む
中三兼遠が女なり義仲妻とて其甚勢力あり善戦し小妻あり

小陸の我小兵を率く將とあり元暦元年正月廿二日東軍洛小入
義仲の軍敗る勢固小少れ士軍散るやある兵七騎巴女
其中にあり義仲巴女向く曰我運命今日小する死小少く女子
汝携る幸恐くく後傍有り速小く汝去る〜巴女止む幸汝
得る別家又汝の中へ入る小内田三郎家吉とて者大力の士あり
巴女と捕んとて馬と並べ巴女髪を挿佩刀と抜首汝の〜人とて巴女
拳汝舉て其肘と打首汝を馬を馳く〜山路を徑本る小ゆる其汝
右大将頼朝巴女と居て和国義盛小取也と先多力の男子と生れ
乞〜也今合汝義盛と終汝納く後朝比奈三郎春秀と春氏頗る
勢力あり〜世に聞ゆ

山吹山 鞍の北にあり土人云は所
山吹女の居る所なり

平家物語云義仲小二妻あり一本巴一本山吹元暦の合我小山吹疾
あり糸陣に止る又源平盛衰記云義仲小二妻あり一小葵一小巴何色

も善報の葵破浪山石散死二説日トツハ武云山吹と齊藤別當を
盛が女らつるゝ其是のるををををを

荻曾川 荻曾の山中より出る

住還橋 本を築いて長サ十二間

德音寺橋 長サ十八間

義仲子洗水 橋脚の東道の

石碑云 往古木曾義仲公 鎮守南宮神社水

御手洗也 唱來廢年 歷久矣 歎之今

新造立石船者也

奈良井まで一里半 駅中南小五町許相對一

巷以ふん其峰山間も散在ん

熊野権現祠 別 奈良六月十五日

極樂寺 同山 奈良和尙 古島十右衛門のこまに建る

信濃 藪原

藪原宅 古島十右衛門の邸 中下邸 等の止今みか 藪原と

五反田橋 長サ十一間 本を築いて 築山小鷹 鶴雛を生ずるとん

巢鷹官舎 府下の鷹匠 本を築いて 諸村みかを築くは 邑 塚小

土産 駒 本を築いて 諸村みかを築くは 邑 塚小

名造お六橋 は 腰 藪原 奈良井 等小

抑ばお六橋と本を此山中の名造りて 山間小田圃少なる

多く諸品を製造これを貨之業とん 特小近年お六橋を

名して諸州ふるふ本を棟梁とらふを製は 橋のより 橋り

伊斐諾尊にして 浄子素盞烏尊 鯉の川上まで 奇縮田姫を湯

津の爪橋を浄誓小排のふより 起る 其後 欽明天皇詔ありて

八品大明神と崇光根匠の家々 種とをわたり 解橋 眞橋 遠橋

爪橋 排橋 眞橋 遠橋 宗作 後小路 大原 綱と 伴 伴 眞 尊 以 來 八 品

小橋 木の 諸品

昭神と尺格匠とに神とをく其恩惠成報と云いしと
 鳥居嶺 駿路坂嶮し馬車余りた危れたりなりし本居を
 信玄や本居義康とこれ合戦あり其後天正十年武田勝頼
 今福筑前守武田將とて人殺八千餘は討へたり本居左
 馬頭義昌信長公の濟方とて七千餘人あり本居嶺へ馳向ひ

武田は年私欲月々小寄を年々小横久本居義昌其外叔孝
 謀及と企たり中畧月十二日信忠卿波年より所出陣ありその
 夜土田小清宿あり十三日高野十四日岩村小清着あり院河左邊
 將監毛利河内守水野監物同宗を流射る十二日の未明岩村より
 信列停系に抄紙也月十四日小信列松尾の城主小笠原掃部助味方
 小春忠節と被殺さしと紙紙付く團平八森勝藏とせざる所
 早手合りて小笠原掃部助を所く烟を揚りたりと飯田城本

鳥居嶺



御嶽
 遠景

義仲
 硯水



楯籠る伴西星名なごも方く運心體と見及は抱まごくやをひらん
其表則因縁のく處小森勝義四五里隔陣取くあつては由は聞と
印くく一騎馳馬くけ付退後まごる者もあつて討捕頭三百餘信忠つ
へ進上は叔勝頼と本曾表を遣りて今福頼希も小巳が子の馬廻
むろり居加は合其勢八千餘騎希希津表へ居きける二月初旬の頃
形は六殘雪降つて谷も暮も平等小成り一向けにたけあつたれど
今福頼希も武者大將として本居にせし働もなる義昌が先勢も島居
津以希もあて当座の要害と様く居りて乃れが今福が子遣とゆき
より早く先も此着は由は進して乃れを義昌も安くぬ更もとて苗本
之を勝尉や合せ出張を合其勢七千餘騎希良井坂と喚き叫んぐのみど
希居津見て今福と渡り合ひ既小合戦小なる殘雪谷峯に満く戦場ゆせ
まごくびやふねをおのぼり割腹もいぢるに地して進小まごる勇士
互小善とあり辰刻より未時中まであかぬを乃れに鐸をわり切川持は川

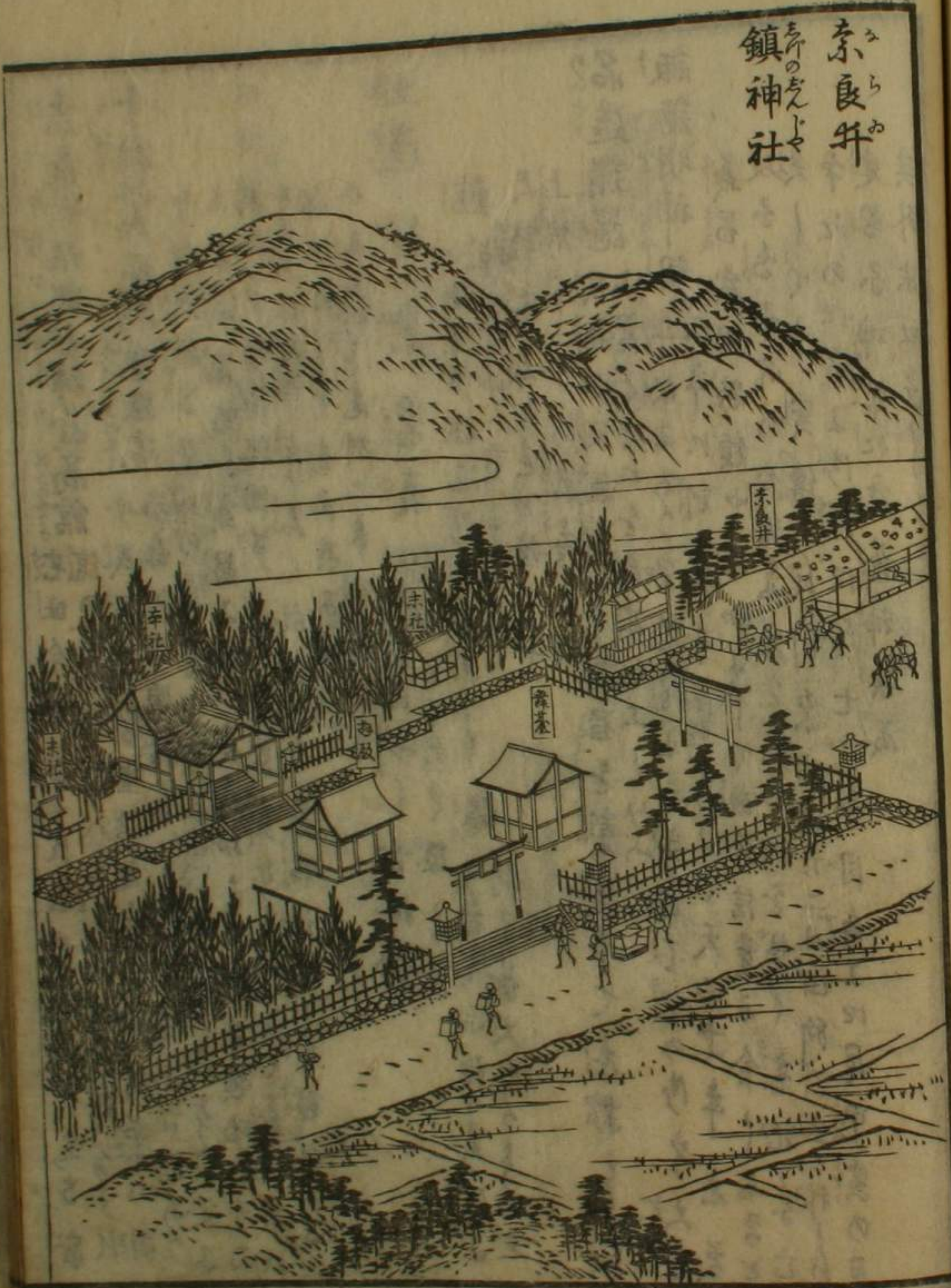
南風小風とて先途や攻取つてあふ久義勝尉父子右にこれの週とつひ
押廻し横槍小突をり難くはさるる今福横槍希多き突をりは
敗亡し乃れに三里が間退討はせしめてなれ討捕頭の臣文宗流の者希跡
治地少補有突備後吉益并益原小と同左系進其外究竟の兵も又百
七十餘人なり其頸共中將信忠に一本居義昌より指申乃れ六清感斜
まごりて使者小黄金百兩小袖三重下し送りたる義昌へは比類され
働の有清感の表をいされなる為要しれを信長記小ありけり見え
義仲硯水 希居津小あり横槍の法氣なりは作西の下には義昌の入口より
乃れあははるる出る是より希居津へは道ありは十九里に義昌が馬に
まごりて使者小黄金百兩小袖三重下し送りたる義昌へは比類され
白碑 雲菴より人ふやまごりて一碑を立

信濃
宗良井

熱川まで一里半又猶井にも書以熱中東西七所好お對て
巷をひん其俗民家散在は宿禁昌の地ありて本居

熱中の甲なり

鎮神
宗良井



鎮大明神 祠 宗良井の西にありむ村氏伝る云元和年中興

鍋懸 伊予郡の法村にあり絶頂あり東の方と云ふ

宗良井橋 伊予郡の法村にあり絶頂あり東の方と云ふ

大寶寺 天正年中宗良井と号す伊予郡の法村にあり

長泉寺 義高の墓ありと号す伊予郡の法村にあり

尚中 眞と安和尚開基中世廢絶し文禄元年開應和

景勝の部將小住居して武名あり中頃あり信若を拜し

去る宗作小住居して武名あり中頃あり信若を拜し

白山権現祠 観音堂あり



宗良井治部少輔義高館館の址今詳ならず本名麻流坪也古家
 千村治郎左衛門重照宅今民居とある重照自裁不林檎粟の樹
 千村治郎左衛門重照千村治郎左衛門重照の舎弟八郎左衛門重政の子なり父
 本名義高千村治郎左衛門重照の舎弟八郎左衛門重政の子なり父
 其後義高千村治郎左衛門重照の舎弟八郎左衛門重政の子なり父
 通以千村治郎左衛門重照の舎弟八郎左衛門重政の子なり父
 今本名義高千村治郎左衛門重照の舎弟八郎左衛門重政の子なり父
 土産千村治郎左衛門重照の舎弟八郎左衛門重政の子なり父
 稗粟千村治郎左衛門重照の舎弟八郎左衛門重政の子なり父
 麦千村治郎左衛門重照の舎弟八郎左衛門重政の子なり父
 鮭千村治郎左衛門重照の舎弟八郎左衛門重政の子なり父
 尺千村治郎左衛門重照の舎弟八郎左衛門重政の子なり父
 名造諸器千村治郎左衛門重照の舎弟八郎左衛門重政の子なり父
 諏訪明神祠千村治郎左衛門重照の舎弟八郎左衛門重政の子なり父
 義高武因勝頼千村治郎左衛門重照の舎弟八郎左衛門重政の子なり父
 攻高居清千村治郎左衛門重照の舎弟八郎左衛門重政の子なり父
 矢して幸實千村治郎左衛門重照の舎弟八郎左衛門重政の子なり父
 本社の口方千村治郎左衛門重照の舎弟八郎左衛門重政の子なり父
 建忍ふ神千村治郎左衛門重照の舎弟八郎左衛門重政の子なり父
 其外末社多し千村治郎左衛門重照の舎弟八郎左衛門重政の子なり父

平澤 村の名は橋細工塗物と

熱川

幸山まで武里いりへる温泉あり故小熱川也
名はく東山道駅次は所より東流松平領とん西と

本名岩の岡みか尾列産の沖領なり尚駅中東西に町
谷相對して荖沢より最般阜たり其谷の民居散在に

櫻澤橋 西に方六間尾別産より池造り東六間松平領より橋

熱川 駒ヶ嶽より流れ其下沢庵川とて其水小流して松平に

楠本澤 伊予郡小聖村の界より入り小野村ハ産神祠七年小

諏訪社 一村は神とりのり

観音寺 大田元年田村將軍御建其後率久くを廢し

千村氏再建と

曹洞宗飛梅山と号し

曹洞宗飛梅山と号し

鷲着寺 曹洞宗飛梅山と号し

押籠橋 村の東路中にあり長サ十間本以製して梁

契川四郎家光家 本名備前守家村の四子なりは賦本居後を

尾州氏と云ふ

千村右衛門尉俊政家 本名備前守家村の五子なり家重上列千村

其十世の孫俊政なり本名義康に属しては邑小

長と云ふ其家に食邑汝段あり平小麻人なり其後小笠原

二通本名義康の状

荻曾 本名義康の状

荻曾 鹿猪羊熊等 本名此山中三かろ修と修に就中

土産 絲綿 麻 又接骨薬 傳方と技傳と修と奇効あり

五月 日橋 長七回

夜更着明神祠
本居山の中
後便着の
其の
其の
其の

例東八月
黒川
本居山の中
後便着の
其の
其の
其の

黒川
本居山の中
後便着の
其の
其の
其の

黒川
本居山の中
後便着の
其の
其の
其の

黒川
本居山の中
後便着の
其の
其の
其の

黒川
本居山の中
後便着の
其の
其の
其の

黒川
本居山の中
後便着の
其の
其の
其の

黒川
本居山の中
後便着の
其の
其の
其の

黒川
本居山の中
後便着の
其の
其の
其の

黒川
本居山の中
後便着の
其の
其の
其の

黒川
本居山の中
後便着の
其の
其の
其の

黒川
本居山の中
後便着の
其の
其の
其の

黒川
本居山の中
後便着の
其の
其の
其の

黒川
本居山の中
後便着の
其の
其の
其の

黒川
本居山の中
後便着の
其の
其の
其の

黒川
本居山の中
後便着の
其の
其の
其の

黒川
本居山の中
後便着の
其の
其の
其の

黒川
本居山の中
後便着の
其の
其の
其の

黒川
本居山の中
後便着の
其の
其の
其の

黒川
本居山の中
後便着の
其の
其の
其の

黒川
本居山の中
後便着の
其の
其の
其の

地渡 澤村中男女お交り毎々五月五日本嶽を巡歴あり其
と看く男女幾多き者あり其地を巡歴する者あり其地を
右代の所なり今に津嶽山同山に於て津嶽山の嶽あり
本嶽は山の中にあり五穀を生じ山同山に於て津嶽山の嶽あり
西野 嶽は山の中にあり五穀を生じ山同山に於て津嶽山の嶽あり
黒澤 嶽は山の中にあり五穀を生じ山同山に於て津嶽山の嶽あり

御嶽 権現祠 野の宮と云ふ 本社橋 御嶽の祠に於てあり
本社橋 御嶽の祠に於てあり 御嶽の祠に於てあり
鎮座至徳二年本曾伊藤守家信遠景人若宮と云ふ二十
三年本若右馬頭義康遠景人若宮と云ふ二十
禮堂 堂八間 本社禮堂 堂八間 寶藏 一字 祭禮例年六月

十二日十二日福島三寺の僧来り大般若經法儀心且流馬
三騎あり於て御嶽へ登んとするその際齋七十五日六月十八日
山小登りて祠の寶物本若源長政永福三年六月十三日御嶽
以中尚本牌其姓名と縁以本若義昌欽仙の画板二十六枚と
献び本其四枚失ひ食田勝頼の書翰一通其餘古文書多き有
一ヶ池水も遭く流さるる祠官武居氏守也
御嶽 古信濃一列の大山を西野黒澤末川王滝等其麓本有
星沢より獨奉祀を毎年六月十二日十三日諸人樂舞して
登り全く富士山に登れがごとく絶頂山小祠あり且三井池
ありて其側巨巖矗々たり四季に雪あり靈境と云ふ處
山小登りて四里ありて堂あり夜中炬を照して峯に至り
洞あり金剛童子と云ふ小憩して天明法侍は五粒松と云
一枝と云ふ乳龍の如しこれを名づけ御松と云ふ盛夏

一枝と云ふ乳龍の如しこれを名づけ御松と云ふ盛夏



とらども山間積雪あり料本生せど又三里登まは絶頂本至
二祠あり一は王権現中らひ一を日権現とらひ其西の峯に三祠
あり一と便利遊羅とらひ一と八王子とらひ一は土祖権現とらひ
其東の峰に三池あり一の池を水洞とらひ一は池のあが
一の池を水満と西せ小流る其小沢地獄谷とらひ硫黄多く溪
川ありて王権現のつる濁川とらひ是硫黄の氣にして其水甚ど
臭きあり又山上本島ありれ鬼の如く毛丈雌雄のてく人と
見ても驚は山と一草成生は葉藤蕪本似たり小気候く状莖
葉はおく色は紫なり名づけく駒草中らひ又一草あり葉小
似く大さる葉軟にして里人採て喰ふは種を清菜とらひ
氷満園道 王権現あり滝越本至山路甚だ険絶壁數十級梯
て登のりて名は御手水とらひ有司園道を造て山路
傍本欄干とて依りて寒本谷中第一の壯麗なり馬次本肌さる
少なり怪変

土産十一鳥

本島岩中にみかこれあり飛騨嶺の如く一啼声十一と
諸獸 常鹿 鹿 鹿 鹿 鹿 鹿 鹿 鹿 鹿 鹿
熊皮 熊皮 熊皮 熊皮 熊皮 熊皮 熊皮 熊皮 熊皮 熊皮
山神 獨子 本島 岩 岩 岩 岩 岩 岩 岩 岩 岩 岩
岩戸 権現 祠 王 権 現 上 帝 岩 間 本 祠 を 建 清 泉 岩 登 山 洞 出 産 泉 水
して絶頂祠家傳云是御嶽の別宮なり毎年六月十六日諸人
御嶽山登り祠官導れと文龜和正天文弘治永祿等の系文
あり又御嶽の縁起一卷有り天正二十年三月也末よ書は天正
の年号も十九年也く罪所謂二十年とく層候ありや思はれ
むく御嶽の鳥居ありくは地とやんぐ今本鳥居
原とく

本曾殿墓 三沢小里人其名次々只本曾殿と云ふこれハ本曾左
系大支義元飛騨の國司を合戦しつゝ小於て軍敗して命次
墮死即此墓なり云

権守兼遠墓 三沢小里古石塔婆在りいづこの人云く小噴と建る
崩越古城 三沢の傍北山ト云ふあり本曾左系を支義元飛騨軍
三浦山 三浦山本曾の山にありて王権より登内路あり

此山と清嶽の東山の麓より登内路ありて三沢小里に於て一峯
みづる名は亦て御殿と云ふなり一途小清嶽の御殿ありと云
又高嶺山登まれば飛騨信三列の界なり標と建る誌と述ふ
山沢下川八町ありて一塔橋あり是九嶺の第一なり其下子
洞あり水無澤と云ふ又高嶺山降む巨巖あり鳥帽子岩と云
ふこれと登まれば四方峰密歴くや見へく駿河の富士誠此山
白山と云ふ詳なり第六嶺山至れば洞あり琴沢と云ふ又板屋

ありて小嶽山所より已めて高嶺山登まれば其間の山路岩嶮截り
て往をかへ橋を架して磴をたれ艱難辛苦して第九嶺小里に於て
山高峻と極むと云ふ地平ありて大道の如くは奥倉倉崖と云ふ
則清嶽の岬なり其路左邊飛騨小里其上を飛騨嶽と云飛騨川
より小里其路の右邊信三小里して絶子嶽と云其下に瀑布あり
旁と散れがめし嶽と百回嶽と云是王権川の傍より下流と本曾の
大河小里合ふ其上の嶺石壁屹々易くは嶽小これを登まれば飛騨
界あり小里第九嶺一嶺より第九嶺あり行程約十里其道の道小
道より下流小里白岩に於る其西岸即本曾王権山なり其東の岸
山中三浦と云ふ一の板屋あり極小舎と云ふ里人云ひて三浦を云と
り者ありて兩壘してこふ岳ん極むも寒谷と云ふは因縁
岳小里越小里これより白岩に至り嶽越小里第九百回嶽より
白岩小里至り行程又十里許山中度々なりは山中に良材あり

擬本ゆる樹あり葉極く小なり倍ちねを都賀より又一種あり葉油
あて脊白く垂下して竹のやうに群る裏白擬とらへ倍これと白比者
と名づ又一種あり細葉ありて齊整なりあはれ虎尾擬也号く
倍は唐松ともいふ能自本屋小可なり又一種あり葉ゆるして油を
その何の阿羅之本と号く又新羅松及び五粒松なり一葉擬ふゆ
洞一樹の皮まじり歩む若く倍ふこれと青ぬ古といふ其本を成て新
とすふつと乾き付よ能燃ふ猿作獸を退ふく雪爪侵してふ入
時は本と伏く燒火と一寒と凌ぐまうと樺本あり別本州ふこ能
裁に其皮炬とらへこま爪鶴炬也号く蓋これと焼くふよ入くも
減け放小稽を便ふその表は炬を燒く水と照して油をふ可く
又自樺と名づくふの何の其皮重なり為く刺とれと紙のてく
炬燵小可なり又樺の本まじりてその何の皮厚く本理ありこれを
水茅といふ 杖小製なる又靈葉本とらへあり即本州も裁に

倍小色深也号く紫陽小似る葉細長し竹のやうに赤実倍倍
○は山小鳥あり粟沃け離と生れ鶴鶏のやうに甚く多し又一種鳥乃
乾鶴のてらへ灰黒色去人好て倍山鳥といふ是本州より所謂山鳥なり又
御嶽盡樹の地小鳥あり取難の如く赤冠青趾羽色黒白相間も其名と
稱といふは一様とゆく雲中にあり人見る事少かり
○三浦をまの宅中三浦山あり里老相傳く云和国合戦の時其族交
小迫く居る其後能越小移る今に至りて能越村の百姓も三浦氏也
稱に能越能越して三年能越りて猶三浦の字を書き東艦本和国義盛
殿の殿とて首と授けし時一族も討死に只朝比奈三郎泰秀其後能
城より泰秀の母と巴女なりは女本名兼遠が女なりて泰秀は其子孫
物に能く小迫居るも知れなく能越の百姓兼遠を祀りて地を神
といふ三浦をまの墓中三浦山中あり古樹まじり墳あり是和国合
の族建るなり能く小迫とる幸ぬ一頭其子勢力ありあり和国合



片義
馬洗
水新
仲



洗馬
真福寺

原 梗 枯

武士のまじり
あはれ
きらかり
宇万伎

馬洗

小郷本行其里人大岩と脚交六十人由之去程被推ふは程り交を以て其子に命と肩と祭とて往く里人大小駭く且大木坂抜折く杖と一本を小郷が又馬と負ふと越る幸遊越して見る勢のめだの勢力朝比奈三郎小あはれとて准るらんあふ小居る交交して疑危うは

一一条と鎮主の有司本君の山中巡檢のありむれ之共本君誌を省畧一且本君略駈跡小羅一のをこに若んのもこ

都々落合の駅よりけ驛まで廿一里あり被獲の山路ありて崖路棧道多く艱難辛苦の路中より勢川より柿本村中畑若神子斤平小橋沢大那本大橋沢多く本君路の界こあふ小標本育西と尾列津鎮東と松本鎮よりこ程と場橋とよりきこ大橋沢の上と千足原とより所ありこ是も本君義仲多く馬次廻り所かりと被獲はは橋あり存は親音堂又岡の森の中に八幡宮の所一移あり幸山ふりて所

本山

洗馬中て三十町西の入は小橋あり川左小橋より往くこ往も本君山より流是出る本君の幸告ふちりて

本山親音堂

橋あり十間橋爪本龍大神の鳥居ありこれを遠くをたれも人煙所々して又より新樹程隔く隣たうひ小疎一東野西切の宕とみか知まふあは村南村あはさく洗馬の駅ふりて

洗馬

信濃 信列河神邊へ十一里松代へ十六里へ

義仲馬洗水

東鑑云 治承四年十月十三日木曾冠者義仲

桑亡父義賢主之芳躅出信濃國入上野國仍住人等漸和順之間為俊綱利太郎也 雖煩民間不可成恐怖思之

由加下知云

善光寺別道 洗馬の東

松原 旗外 小笠原氏は松原を以て

武田信玄の嫡子武田吉元が義信甲府を發馬ありて小笠原家と攻亡

まゝとて本考は押を子面ありて松原が東に押ひひりて先備甘利

左衛門尉飯室三郎を備尉其外馬場内藤喜目三村ら五頭を先先小進んで

既松原松原にうらむは後陣の勢ありて松原城より城に

之隔を長時と一家の同治の補貞基舎弟刑於お備以下三千餘人を

指回らば勢六月六日巳刻松原系に馳せり松原城を打退り松原系

互ひに陰謀入るる進めり相戦ふ小笠原氏負く六百七十九人討死

て源志とて引退けり長時とひ小笠原軍勢松原に其勢四千六百

松原系に押ひて翌七日の卯刻に松原城を破り松原系を破り松原系を破り

信濃 塩尻

奥隼小岡汗馬車馬小馳遠の種旗南水入孔と防に戦ひ分限とありひ
百千の雷乃一度お落りれりあやゆり小笠原勢と今日限とありひ
定し幸おれり切是れも假も弱らばおせ味方此手負死人を踏みえり
つは先小とせ進めりこれより信玄の武威強大と成りてり死
と武田軍記誠性よく見るべし

下諏訪へ三里塩尻峠より西に松平領ありは所より四里あり
松平丹波守度の領地之六万石信列せり同度松平原の地

かりは意のあらみか誠儀の旁へ派ふ又松平より仁科を通り
越中へ行道あり

阿禮神社 塩尻小岡より延喜式神名帳小云統曆那三座の内之大門村
の生土神と云々八月十八日今八幡宮と稱し神

荒神 庚申 子安 半頭天王 飛騨神 諏訪 賀 鷹旗 松原 松原

犬飼 清水 塩尻 塩尻の西の



天保八日
 丁

塩尻

塩尻と下流海の隔る小あり塩尻より二里登る嶺より
何葉と格段ありありゆくは備あり甲列勢と

信軍記

武田晴信翌日卯刻小塩尻市小より敵味方間を揚ふや否也拔さ
はさく切て入陰以合せ追崩し之盡しあは澄度と敵よりこれども
敵の至敵より味方と長逢小勇進其上一勇有存の敵兵小味方体小
六半派之の相戦へを甲兵大小勇進果てせ身くつらな所され晴信
屑とも志多の尺練幸派の之様入め七頭八例して戦ひあふは或い
馬上母之紐で落着をさくゆも何りの進隊ありとも是より及
然れども晴信自兵休廢を軍率派勵し之に敵兵過中遊遊され
足並四度路よありは敵軍の中より思皮遣はるる麻毛する馬小
乗る者指物を切おし仰登りぬくは例と駈来り發をりて
晴信の右の股を去りて小突所を晴信其候の陰の藉乃首派極を
たすし駈がぬ俸してゆしんあよ小山田平次左衛門尉馳来り其武

本号二四七

者以馬より進小引為し押へ首をうたはれんくをわ敵軍大の小
外進立く熱軍極に敗走に信列の二將の向と着陣せざる内らわはふ
雲合の集り勢をひく小一子切乃合戦して子負死人若干なりは候
も多派捨子を親と顧む体と上り小進達を追信く討行小首をわ
半八百七十二級より晴信の思慮し後小あしも遠に安んや敵と進
處一軍勢大小勇あり諸率格骨派を中中小山田平次左衛門
働と他小異とて別感状をせ下されたる

今十九日卯刻於信州塩尻郡塩尻市一城之初頭一ツ討
捕系神妙之至作跡可抽忠信更肝要也仍如件

天文十七年申年七月十九日 晴信

小山田平次左衛門より

晴信と河中将信小澤取あれども敵一騎もあさるを同と十月十日
甲府小澤陣し後ひるる河中将信軍記小よりして見るべし

余之筆法

蘇
子

為

此題
加印
蘇子